

「福島フォーラム」を開催しました

2020年2月15日(土)13時から「コラッセふくしま」にて「福島フォーラム」が開催されました。多くの福島県民に参加いただけるような力は、現在の福島原発行動隊にはありません。一方、被災者の方々は、こういった場に出る余裕もない状況かと推察いたします。

しかしながら、福島原発事故後の課題の多くは、解決どころか、複雑化、多様化、深刻化しています。原点に戻りつつ、行動隊が何度でも問題提起する所以です。

登壇者紹介 今回、フォーラムに登壇くださった方々は以下の通りです。

- ✧ 福島で農業や物づくりを担っている**渡邊とみ子氏**は、母親、亡き夫のレガシー(遺志)を引継ぎ、今なお故郷と避難地を往復の中、福島の復興に尽力されています。
- ✧ 川内村から副村長の**猪狩貢氏**が出席くださいました。避難地としての苦悩と日本の普遍的な課題ともいえる人口減少(震災前3,000人、2015年2,000人)などの行政課題に取り組む状況を熱く語ってくださいました。
- ✧ 福島県選出の参議院議員、**増子輝彦氏**は原発推進の過去における政治活動を率直に認めながら、総合的な福島復興課題に取り組む、強い意志を表明されました。

主な課題は、

- ① 今もなお4万人を超える避難生活者への対応。
- ② 放置されたままの広大な森林への対応(川内村の場合、16,000ヘクタールが森林)。
- ③ 核廃棄物の最終処分。

原発事故を引き起こした、特殊な国、日本ではなく、グローバルに認知される、協働できるシステムの構築を訴えられました。



- ✧ 原子力発電に関わる役職を勤めてきた**北村俊郎氏**は、被災者である経験との両面から、さまざまな知見を述べられました。
- ✧ 福島原発の現場を担っているのは東京電力です。東京電力ホールディングス(株) **青柳英明**福島復興本社副

代表、福島第一廃炉推進カンパニー廃炉コミュニケーションセンター副所長木元崇宏の両氏は福島原発の現状と今後を報告されました。

第一、第二原発、計 10 基の廃炉作業と新たなエネルギーシステムの提示は多くの課題が山積している現状を改めて感じさせられました。たとえば、

(ア) 今もなお 1 日 170 トン発生し、累計 110 万トン(本年末には 137 万トン)が貯蔵されている汚染水の問題。

(イ) 廃炉のための燃料や廃棄物処理の工程は未だ端緒についた、といった段階といえます。目途が立つのは早くとも 2050 年のようです。

これほどハイリスク、ハイコストの電源はない、というのが正直な受け止めです。

東電と国はしっかりした方針の下、着実な工程で世界の不安を除去していかなくてはならないのです。

会場内では菊池和子写真展『福島 芸能の灯消さず 震災を生きる人々』(遊行社発行 2019)も開催されました。<祭りがあるから人が寄る。神楽がなくなったら名実ともに地域は解体する。>

9 年目の 3.11 を迎えます。

(福島原発行動隊 長塚誠)



福島県・川内村ぶどう園支援作業

(公社)福島原発行動隊では、2016 年 4 月から川内村ぶどう園の支援を行ってきています。2020 年 2 月 16, 17, 18 日の 3 日間、ぶどう園「高田島ヴィンヤード(圃場)」にて行動隊から安藤、杉山、家森の三名がレインプロテクションの設置作業に従事しました。地元の地域おこし協力隊の方と 4 名一組で作業を行いました。雪のちらつく中、各自防寒対策服で黙々と設置作業を進めました。6 月には風雨防止用のビニール張り、8 月には鳥害除けのネット張りの作業が予定されています。

こちらのぶどう園はかわうちワイン株式会社(代表取締役猪狩貢)が運営し、村の高田島地区には約 3 ヘクタールの圃場に約 1 万本のブドウの苗木が植えられています。名称「高田島ヴィンヤード」、2021 年以降は醸造施設の建設が予定され、村内で一貫したワイン



造りを目指しています。品種はシャルドネ、メルロー、カベルネソーヴィニヨン等です。

本年の秋には「収穫祭」を予定しています。また、行動隊では「高田島ヴィンヤード」におけるボランティア作業を募っております。詳しくは事務局の杉山まで。

「かわうちワイン株式会社」のウェブサイトは、下記のとおりです。

<https://www.kawauchi-wine.com/>です。

(家森健記)

(注)レインプロテクションは葡萄を雨から守る傘のようなものです。葡萄樹の両側に太いワイヤーを張り、このワイヤーに両側のワイヤーよりも細い半円形のワイヤーを取り付けます。この半円形のワイヤーの上にビニールをかけて完成させます。



「高田島ヴィンヤード」・家森健撮影

院内集会 第3シリーズ(通算 90 回、通算 91 回)

「ALPS 処理水」問題を考える

▽第 1 回 「ALPS 処理水」小委員会報告

日 時 3月 19 日(木)午前 11 時～午後 2 時

会 場 参議院議員会館 102 会議室

報告者 「多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会」事務局

▽第 2 回 タイトル未定！

日 時 4月中、下旬

会 場 参議院会館内会議室

報告者 漁業関係者と折衝中！

「多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会」が1月31日に「取りまとめ」を公表しましたのでこれまでの討議内容等を詳しくご報告いただきます。

安物買いの銭失い？

安藤 博

猛威を奮う新型コロナウイルスで、あっちもこっちも中止/延期。地下鉄、駅、空港など、いつもより空いている感じがします。

福島行動隊(SVCF)関係では、桜美林大学の東電福島第一原発見学会(3/9)が中止。それとSVCFが同大と共催することになっていた同大新宿キャンパスでのシンポジウム(3/14)が延期となりました。

行動隊とは関係のない私ごとですが、大学ボート部の合宿(団体宿泊/練習)が閉鎖に。「OB 諸兄の合宿所立ち入りは当分ご遠慮下さい」と学生が言ってきました。安倍首相が“リーダーシップ発揮”を演じているかのような小/中学校休校を含む各種行事の取り止め要請→文科省から大学事務局への通達→大学事務局から各運動部への(事実上の)合宿中止命令、です。戒厳令の真似事を思わせます。

毎年三月初めに行われる沖縄・伊江島の「学習会」も中止となり、このために沖縄に行っていたわたくし安藤は、10日に予定していた帰京を4日に繰り上げて帰って来ました。この予定変更で痛いほどに知らされたのは「安けりゃいいってもんじゃない」ことです。

同行の元読売新聞記者 A さんも、予定の航空便をキャンセルし、改めて買った10日那覇空港発便で帰京し

たのですが、キャンセルした格安便が全日空でした。

「国難に当たって、流石は日本を代表するキャリア」と言いたい特例措置をとったのです。Aさんは「この度の危機的状況に鑑み、全額返済」を受けました。

「じゃあ僕も」とキャンセル通知をしました。ところが、こちらは格安専門のピーチエア。「キャンセル手続きを完了しました」ともっともらしく伝えてきたのは「A 購入金額合計:7770 円 B キャンセル料金合計:7770 円 返済額:A-B=0でございます」、つまり「一銭も返さないヨ」。この度の危機的状況を一顧だにしてくれないのです。

同じように伊江島学習会参加を予定していた SVCF の『中堅的高齢隊員』Y 氏も、同じように格安エアラインの沖縄便をキャンセルしました。Y 氏への返済は「半額以下のクーポン(6 カ月期限)」です。「半年以内なら、ウチの便に乗せあげる。乗らなきゃ一銭も返ってこないとかあきらめな」です。格安特有のアコギさは、中くらいというところでしょう。

世の中やっぱカネですね。「ピーチの切符は二度と買うまい！」と大声で叫びたいところですが、後の祭りとはこのことです。

事務局連絡会議に、ご参加ください。「ZOOM アプリ」でも参加できます！

事務局連絡会議ではここ数カ月「ZOOM アプリ」を活用して会議を開催しています。「ZOOM アプリ」をダウンロードしてスマホやパソコンの画面に置いておきます。

毎週金曜日の午前10時30分になりましたら“アプリ”を開いて **645 497 5008** と数字を打ち込めば参加できます。

一度、お試しになりませんか？

▽3月の事務局連絡会議の日程

3月13日(金)、20日(金・祭日)、27日(金)

※いずれの日も開始時間は午前10時30分です。

▽理事会

3月13日(金) 午前11時30分から

SVCF 通信：第120号 2020年3月11日

